

歯科治療時の偶発症② ―局所麻酔薬アレルギーを中心に―

歯科麻酔科 助教 松木由起子

1. アレルギー

一般にアレルギーと聞いて思い浮かぶのは、アナフィラキシーショックで有名なⅠ型アレルギーがあります。即時型アレルギーともいわれ、多彩な症状を呈します(表1、図1)。症状発現が速やかです、また、他にⅣ型アレルギー(遅延型)も生じることが知られています。症状発現は緩慢で72時間程度以降と言われています。基本的にはアレルゲンと呼ばれる抗原が体内に入り、免疫反応により上記のような反応を生じます。歯科治療で用いる薬剤では消炎鎮痛薬、抗菌薬に多いと言われています。

Ⅰ型アレルギー
皮膚症状:じんま疹、発赤
呼吸器症状:咳、喘鳴、呼吸困難
粘膜症状:口が腫れる、目の充血
消化器症状:腹痛、下痢
ショック症状:血圧低下

(表1)



(図1)

2. 局所麻酔薬アレルギー

アレルギーの頻度ですが、歯科用局所麻酔薬の添付文書では、「使用成績調査等の頻度が明瞭となる調査を実施していないため、副作用発現頻度については不明である。」と記載されています。また局所麻酔薬のなかでは、エステル型の局所麻酔薬は比較的小さいやすく、アミド型はきわめて稀と言われています。

歯科用局所麻酔薬の成分には局所麻酔薬の他に、血管収縮薬としてアドレナリンやフェリプレシン、防腐剤としてメチルパラベン、酸化防止剤としてピロ亜硫酸ナトリウムがあります。これらの添加物や防腐剤はアレルギーを比較的に起こしやすいと言われています。

3. アレルギーの検査

詳細な病歴聴取を行ったあと、アレルギーであった可能性があった場合には検査が必要になります。可能性のある成分は様々です。

アレルゲンの同定には複数の検査法がありますが、100%の信頼性のある検査はありません。体外で反応をみる *In vitro* の検査法として有名なのは薬物リンパ球刺激試験(DLST)です。採血だけで済む利点がありますが、偽陽性・偽陰性の可能性もあります。実際に体内に検査物質を投与する *In vivo* の検査としては、負荷試験や皮膚試験があります。これらは *In vitro* の検査に比べると信頼性は高いのですが、アナフィラキシーを起こす可能性があること、ショックが起こった際にはその対応が必要なことなどリスクを伴います。

当院でのDLSTは、平日のみの受付(15時に検査室必着)になっています。検査は自費となり一検体あたり8,000円(税抜き)が必要です。結果が出るまで8~10日かかります。あらかじめ歯科麻酔科での予約をお願いします。場合によっては他院での検査となる場合があります。

4. 鑑別すべき病態

まず、局所麻酔薬アレルギーを疑う状態になった状況をよく確認します。局所麻酔薬を注入中もしくは直後に意識消失などをおこしたのであれば、血管迷走神経反射を、皮膚症状がなく痙攣やめまいなどの場合には局所麻酔薬中毒を、顔のほてり、血圧上昇、頭痛などの場合にはアドレナリンなどの血管収縮薬による全身反応を疑います。また手のしびれや過呼吸による呼吸困難を訴えた場合は過換気症候群を、気分不快などのあとしばらく横になったあと数分で回復した場合には血管迷走神経反射を疑います。ほとんどの場合、これらの症状・病態であることが多いのですが、発赤・発疹などの皮膚症状を伴い、呼吸困難、意識障害などが生じ何らかの救急対応を要した場合にはアレルギーを強く疑います。

5. 実際に患者が来院したら

患者が局所麻酔薬アレルギーであると申告があった場合、詳細に病歴聴取をします。先ほど述べたように実際には局所麻酔薬アレルギーではない場合の方が多いのです。実は局所麻酔薬アレルギーでなかった場合、前医の否定をすることにもなりますので説明の際には注意が必要です。また、患者の強力な思い込みがある場合もあります。この場合には、高次医療機関のアレルギー専門外来の受診を促すことも選択肢の1つです。

局所麻酔薬アレルギーが強く疑われる場合は、必要な検査のあとに陰性であった薬品を使用します。ただし、先ほど述べたように、検査結果は100%ではありません。このため、アレルギー反応を生じることも考えられます。また、局所麻酔薬アレルギーのため局所麻酔薬が使用できない場合は、全身麻酔下に歯科治療を行うこともあります。

2015年1月

福藁号

東京歯科大学千葉病院医療連携NEWS

デンタルドットコム



謹賀新年

千葉病院長

井上 孝

新年明けましておめでとうございます。

先生方には、お健やかで佳い新春をお迎えのことと思います。

昨年は、大学本部が水道橋に移転したあとの正念場の年でした。そして不安定な世相の中での1年でしたが、皆様のおかげで、無事乗り越えることができました。千葉病院が進退両難であるかのような噂も耳にします。厳しい経済状況の中ですが、千葉病院は存続することをお約束させていただきます。今後、益々地域の先生方のお役にたてる歯科病院を目指し、一同精進する所存です。

本年も宜しくお願い申し上げます。



医療連携委員長

柴原 孝彦

新年明けましておめでとうございます。

平素より本学千葉病院との病診連携にご尽力いただき誠にありがとうございます。昨年は千葉病院 renewal の年でした。一昨年から全学生の水道橋校舎への移動、昨年4月から千葉病院本務教員の一部配置転換などが行われ、千葉病院スタッフの人口密度は低くなりました。しかし、地域先生方のお陰を持ちまして、紹介率、患者数の減少を招くことなく経緯することができましたこと、改めて感謝申し上げます。

病院機能のスリム化と効率化を求め、診療体制を一般歯科系、口腔外科系、育成歯科系、専門歯科系の4部門へ変更し、患者ニーズにお答えしようと考えています。夏の恒例の医療連携講演会では新しい病院システムについてもご紹介したいと考えています。

千葉病院は、正面にコンビニができ、スタッフも減って様変わりが続けておりますが、医療レベルに変化はありません。各分野の専門家は常駐し、先生方と密な連携を継続する準備はできております。また、患者サービスの一環として医師との連携による半日人間ドックも設営されます。今年も先生方と共に仕事ができることを最大の喜びと感じています。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。



◎千葉病院の最新のニュースを掲載します。

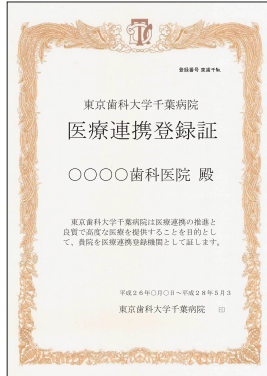
医療連携登録制度について

平成26年7月より、東京歯科大学千葉病院では、医療連携の推進と良質で高度な医療を提供することを目的として、医療連携登録制度を開設致しました。近隣の先生方との医療連携をより一層強化し、より良い医療を提供していきたいと存じます。

申請など詳細につきましては、ホームページをご利用頂くか、医療連携室までお問合せ下さい。



(名刺サイズ)



(証書サイズ)

— イベント開催報告について —



杉山哲也講師



井上孝病院長



鹿沼敦子氏



千箇祭(模擬店)



診療科等紹介



歯ブラシの使い方説明



業者展示

●年末年始休診日 12月28日(日)～1月4日(日) 休診中の連絡先：043-270-3700（守衛室）

●口腔がん集団検診開催予定 安房歯科医師会/3月26日(木) 江戸川区歯科医師会(2回目)/3月29日(日)

医療連携協議会メンバー 【委員長】柴原孝彦 【副委員長】茂木悦子 【顧問】井上孝 末石研二 相馬克巳 【干葉病院委員】石井哲、石崎憲、色川大輔、浦田知明、大久保剛、大畠仁、神尾崇、杉山節子、杉山哲也、中島一憲、法月良江、橋本和彦、別所央城、松木由起子、薬師寺孝、米津卓郎 【学外委員】板谷賢二、伊藤修一、木屋和彦、斎藤英生、斎藤祐一、鷺二郎、谷内智徳、宮内泰雄（五十音順）

医療連携委員より

◎医療連携について、シリーズで掲載します。

第3回 周術期口腔機能管理と地域医療連携 口腔外科 講師 大畠 仁



近年、国民の2人に1人が、がんに罹患し、3人に1人が、がんで亡くなっています。また、がんの罹患率や死亡率は年々上昇を続けているため、がん治療に重点がおかれ、地域がん治療協力・拠点病院が整備されつつあります。がん治療(手術療法、化学療法、放射線療法)には高頻度で様々な口腔合併症が発症するといわれており、がん治療に当たっては地域医科医療機関と地域歯科医療機関の地域医療連携の構築と医科・歯科共同治療が重要であるとされています。

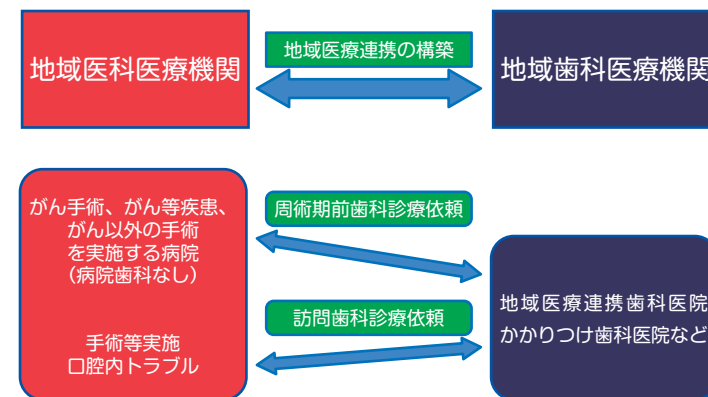
周術期(入院、麻酔、手術、回復といった患者の術中だけでなく、入院前から退院後を含めた一

連の期間)における入院・手術前からの口腔管理・口腔ケアの重要性が認識され、平成24年度の診療報酬改定ではがん等に係る全身麻酔による手術又は放射線治療若しくは化学療法を実施する患者、臓器移植手術、心臓血管外科手術、骨髄移植手術などの患者に対して周術期口腔機能管理が新設されました。これにより医科医療機関と医療連携を結んでいる歯科医院やかかりつけ歯科医院に対し、がん治療患者の周術期前の口腔機能管理が依頼されるようになり、病診連携の機能が求められるようになりました。

さらに平成26年度の診療報酬改定では、周術期口腔機能管理の充実と歯科医療機関と医科医療機関との連携が重点課題とされ、がん等患者の共同治療(チーム医療)が強く求められ、医療連携における歯科治療の責務は重大となっており、また医科医療機関では、周術期患者(がん手術及びがん以外の手術)ばかりでなく内科的疾患患者の口腔ケアの重要性も認知されてきており、入院患者、手術後患者への訪問歯科診療依頼も増えてくるものと思われます。

しかしこのような患者さんは、主病名の疾患ばかりでなく他の全身疾患を持ち合わせていたり、特定薬剤の投与をうけていることが多く、連携医での対応が困難な症例もあるかと思われます。ご相談や対応困難な症例などがありましたら当院の医療連携室にご連絡ください。

当院も地域中核歯科医療機関・高次機能医療機関として、医療連携における役割を果たすことが今後さらに強く求められると認識しておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



＜ 周術期口腔機能管理イメージ ＞